北九州芸術劇場 KITAKYUSHU PERFORMING ARTS CENTER　北九州市立 響ホール HIBIKI HALL

情報誌 つながる、見つかる

vol.67 2020.03～

CONTENTS

H ZETT Mインタビュー

「H ZETT M ピアノ独演会2020 北九州　響の陣」

扉のむこうがわ 合唱物語「わたしの青い鳥」ラストステージ

地域とアートのステキな関係「クラシックを開く」

ピックアップ!STAGE&MUSIC

ただただ踊る、それが楽しい

情報誌 つながる、見つかる

vol.67 2020.03～

表と裏のあいだに。

何かに夢中になるのに年齢なんて関係ない、人生は自分次第でいくらでも楽しめる!そう感じさせてくれるのは結成10周年を迎えた『おやじフレーバーズ』の皆さん。2009年に劇場で「月1ダンス部」番外編として実施した、伊藤キム（振付家・ダンサー）プロデュースによる「おやじカフェ」。公募で集まった参加者がダンスの楽しさに目覚め『おやじフレーバーズ』を立上げた。仕事の傍ら、自分たちで活動しながら地域のイベントなどで披露するステージ数は年間40回を超えている。周囲を巻き込む彼らのダンスは、誰もが笑顔になれると評判だ。次のお休み、どこかで彼らのダンスに出会えるかも──。

あんたも一緒に踊ろうや！

情報誌Q

超絶技巧のパフォーマンス、実験音楽、高度な芸術性の融合、さらには満員の観客を釘付けにするユーモア溢れるステージが各方面から高い評価を得ているピアニスト「H ZETT M」さん。今年響ホールでの初公演が決定したことを受けて、2019年末の大阪公演にお邪魔し独占インタビューさせて頂きました。

取材・文／後藤暢子　撮影／伊藤祐太

INTERVIEW

H ZETT M

「使う絵の具はみんな一緒」12色で奏でる縦横無尽の音の世界

毎日歯を磨くようにピアノを弾く、H ZETT Mの起源

—H ZETT Mさん（以下、Mさん）は幼少期からずっとピアノに触れているそうですが。

はい、3~4歳の頃に、音が出るのが楽しくてオルガンを弾き初めまして、その様子を見た親がピアノを習わせてくれました。僕にとっては、朝起きて歯を磨くことと同じくらい、ピアノを弾くことが一日の流れに溶け込んだ自然な行為でした。その後、小学生の途中でエレクトーンを習い始めたんですね。ここでコード進行というものを知りまして。当時の先生に『コードがわかると演奏が楽になるよ』と言われたんですが、そのお陰で今のスタイルがあると思います。

—クラシックと同時に現在のスタイルに通じるポップスの世界での決まり事であるコード進行も習得されていたんですね。では、インドアで音楽マニアな少年だったのでしょうか?

いえいえ、サッカーとか野球もするような、普通の子だったと思います。ただ、小学生のときにNHK FMでフュージョンやテクノ、ジャズといった様々なジャンルと出合いまして、クラシックだとかノン・クラシックだといった垣根を意識することなく、色々な音楽を聴いていました。TSUTAYAでもレンタルしまくって。

—そんなMさんは、高校から国立音楽大学の附属に進学されますが、音楽家になることは小さい頃から決めていたのでしょうか?

音楽家になるとかならないとか、あまり考えたことはないんですよね…。ずっとピアノをやっていて、気づいたら今があるというか。ただ、学生時代のピアノのレッスンは7冊同時に教本を進めるようなやり方でした。今考えると先生がすごいなと思うんですが、今でもそういうやり方をすることがあります。何かひとつのことに集中するより、同時に色々なことを学んだほうが理解が速いような気がしません?

—それはMさんの許容量あってのことかと…。

だからでしょうか、僕の音楽にはジャンルの垣根がなく色々なものがミックスされています。もちろん、自然な音の流れが確立されているクラシック出身なので、それが基本にあるとは思っています。

—とても納得しました。Mさんは「曲は常に湧いてくる」とインタビューなどで答えられていますが、作曲のためにされているこだわりなどはありますか?

特にこだわりというのはないんですが、生で聴く喜びを最大限に感じてもらえたらなと思って曲を作りますし、演奏しています。音楽ってどんな人の身近にもあるもので、心臓の鼓動だってビートだし、声も楽器のひとつだと考えているので。それが僕のスタイルになっているんじゃないかなと思います。

ジャンルにとらわれない、H ZETT Mの音楽観

—ピアノの独演会と聞くと、きちんと座ってお利口に鑑賞するというイメージがあるのですが、Mさんの独演会ではじっとしてなどいられない…くすっと笑ってしまう瞬間もあるし、思わず感極まってしまう瞬間もあります。楽しませよう、という気持ちがこちらにまで届いてくるように思います。

そうだと嬉しいです。ステージでは、集中とリラックスが同居することを心掛けています。僕の音楽を通して、色んなところに連れていきたいし、アンテナを拡げてもらいたいなって思っているので。

—先ほど、ジャンルを問わずに音楽を吸収されてきたと伺いましたが、Mさんにとって、音楽ってどんなものですか?

使う絵の具はみんな一緒だということですね。鍵盤って、ドレミファソラシドの12音しかないじゃないですか。その音をどう使うか、ただそれだけというか。ですから、僕の中ではこの絵の具でどんな絵を描くか、というシンプルなことなのかな、と。

—それにしても、奇想天外な展開やパフォーマンスの連発で、ステージはあっという間です。

そうですね、練習中に、「こうやったらどう響くかな?」といったことを考えて実験しています。ステージは、その集大成です。誰もやったことがないけれど、品性を失わないギリギリのことをやりたいなと思っています。

—常に実験的音楽に挑戦し続けているMさんにとって、「これはもうちょっとやり直してみたい」といったエピソードはありますか?

高校のときに、オーケストラの曲を書いたことがありまして…、今ならもっとこうやれる、こうやってみたい、とか思いますね（笑）。

—いつかぜひ実現してほしいです。そして響ホールでも聴いてみたいです!

ありがとうございます。今回、初めて北九州にお邪魔するので本当に楽しみにしています。

12色の絵の具でどんな絵でも描けるように、“ドレミファソラシド”を自在に操り、縦横無尽にジャンルを超えた音の世界を描き出すH ZETT Mさん。期待の独演会は、ステージでのおどけた表情にほっこりさせられたり挑発的な音色に感化されたりと、クラシックファンもなじみのない人も、他ジャンルの舞台芸術が好きな人も楽しめる要素が詰まっています。8月の公演をどうぞお楽しみに。

「H ZETT M ピアノ独演会2020 北九州　響の陣」
8/29（土）15:00開演 ◇北九州市立 響ホール
※5/28（木）チケット一般発売

PROFILE

エイチ・ゼット・エム | ピアニスト／エンターテイナー／音楽家
“PE'Z”の「ヒイズミマサユ機」、椎名林檎が率いた“東京事変”第一期のピアノだった「H是都M」なのではないかという憶測が飛び交うも、本人はぼんやりと否定。音楽ユニット「H ZETTRIO」の活動と並行して、グランドピアノ1台だけでの“独演会スタイルライブ”を不定期で開催。

ラジオ出演情報
cross fm『 H ZETT M ~HAPPY SATURDAY NIGHT~ 』　毎週土曜23:00~ OA

北九州芸術劇場プロデュース／市民参加企画

合唱物語「わたしの青い鳥」ラストステージ

©梅本昌裕

©梅本昌裕

©梅本昌裕

2004年に始まり、市民参加型の劇場レパートリー企画として8歳から80歳代まで幅広い世代の方々に愛され17年続けてきた「わたしの青い鳥」。メーテルリンクの名作「青い鳥」をオリジナルの合唱で綴り、本当の幸せとは何かを参加者・観客に問いかける。

ラストステージ参加者募集中。詳細は劇場ホームページにて

トントン、トントン。おばあちゃんと少年、ふたりで開く扉。

「一人じゃ心細くってね（笑）」そう語る松原満利子さんは、2年前から孫の颯海君と「わたしの青い鳥」に参加している。全14回のワークショップを経て本番の舞台をつくりあげるこの企画。はじめは「ばあちゃんが勝手に申し込んだけ」と控え目だった颯海君も、気づけば、おばあちゃんの手を離れて友だちの輪の中へ。音楽の授業は好きじゃない、でも"考えて作ること"が好きだという颯海君は、歌でひとつの物語を紡いでいく青い鳥の世界に夢中になった。おばあちゃんも驚くほどのスピードで歌を覚え、毎回足早に稽古に向かう。「これまでに見た事がないような姿で」と、満利子さんにも自然と笑みがこぼれる。昨年の公演当日、観客席にはお父さんと兄姉たちの姿も。「颯海の声がしっかり聴こえたよ」大好きなお父さんの言葉に、少年は胸を高鳴らせる。青い鳥が繋ぐ、家族の輪。10歳と67歳。ふたりのチルチルミチルの物語が、今年も始まる。

文／蒲公英

地域とアートのステキな関係

響きわたる音楽で、見慣れた商店街が別の顔を見せる。

レストランとコラボした人気のディナーコンサート。親子ランチの構想も!

保育所や学校、いつもの場所に演奏家が出向き、クラシックをより身近に。

初めてのヴァイオリン体験!

クラシックを開く～演奏家が演出する、地域と音楽との出会い

ヴァイオリニスト／響ホール室内合奏団 アシスタント・コンサート・マスター 加来洋子さん

音楽と出会う環境をつくりたい

1998年に結成された響ホール室内合奏団は、年に数回の定期公演に加えスクール・プログラムのように地域に音楽を届ける活動を行っている。合奏団でアシスタント・コンサート・マスターを務める加来洋子さんは、八幡西区出身。東京音楽大学卒業後、合奏団の立ち上げと同時にメンバーとなった。

合奏団の活動は幅広く、響ホールと協働で行うオペラと演劇を融合したシリーズなどハードルが高いと思われがちなジャンルを気軽に楽しむ企画や、子ども向けの楽器体験ワークショップも行う。「団員が運営を担う自主性の高さも魅力なんです。」と語り、活動を通して、音楽体験が人々に与える影響を目の当たりにすることで、「音楽と聞き手が出会えば何かが起こる。だからこそ音楽と出会う環境づくりが大切だ」と思うようになった加来さん。商店街や博物館での演奏やレストランとのコラボレーションなど、個人の演奏活動でも様々な手法でクラシックの間口を広げ、人々と音楽の出会いを演出してきた。

異ジャンルの出会いから生まれる可能性

幼少からヴァイオリンを始めた加来さん。さぞ音楽漬けの日々を送られたのだろうと思いきや、「プレッシャーも無く、のんびり続けてきました」とほほ笑む。高校も普通校を選んだが、「音楽の世界」と「普段の生活」の双方を行き来することが、一つのことに縛られず、何事も複数の視点でみる加来さんらしさに繋がっているのかもしれない。そんな加来さんはビジネスの異業種交流組織にも参加しているというから驚きだ。音楽の世界を飛び出すことで価値観のギャップに直面もしたが、同時に両者がつながることの可能性を考えるようになったという。

例えば、公募で選ばれた団体の元へ合奏団が演奏に出かける「音つむぎコンサート」。こうした機会を、音楽に馴染みのない層に広げていきたいと願うのも、異なるジャンルの出会いによる相乗効果に期待するからだ。運動部の学生にとって、じっくり音楽を聴く経験が練習の精度向上につながらないだろうか。サッカー・スタジアムでクラシックを演奏したら何が生まれるだろうか。AI技術が開く音楽の可能性とはどのようなものか…。加来さんの口から飛び出すアイデアは尽きることがない。音楽のプロフェッショナルでありながら、様々な領域をゆるやかに横断していく加来さんの視点と合奏団の試みは、凝り固まった「クラシック」のイメージを更新し、音楽と地域のワクワクする未来を想像させてくれる。

文／岩本史緒

STAGE

北九州芸術劇場

その他の
ラインアップ
scan here →

MUSIC

北九州市立響ホール

響ホール　国際音楽祭

7/12(日) 一般発売

モーツァルト 歌劇「フィガロの結婚」~庭師は見た!~

二人の鬼才が放つ、
誰も見たことのないオペラ

DATA
●日程 10/18(日)14:00 ●会場 大ホール ●指揮・総監督 井上道義 ●演出 野田秀樹 ●出演 ペーター・ボーディング(バリトン)、アンナ・クライニコワ(ソプラノ)、小林沙羅(ソプラノ)、大山大輔(バリトン)、ミハウ・スワヴェッキ(カウンターテナー)、森山京子(メゾ・ソプラノ)、三戸大久(バス)、黒田大介(テノール)、三浦大喜(テノール)、コロンえりか(ソプラノ)、廣川三憲ほか ●管弦楽 響ホール室内合奏団 ●料金 S席¥13000、A席¥8000、B席¥4500

ミューザ川崎シンフォニーホール(2015.06.17) ©青柳聡

東アジア文化都市2020北九州 連携事業 特別企画

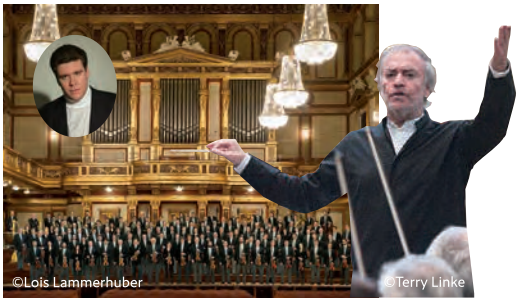
6/1(月) 一般発売

2020北九州国際音楽祭

ウィーン・フィルハーモニー ウィーク イン ジャパン 2020
ダイワハウス スペシャル
ワレリー・ゲルギエフ指揮
ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団

世界最高峰の
オーケストラが
64年ぶりの北九州公演!

DATA
●日程 11/5(木)19:00 ●会場 北九州ソレイユホール ●出演 デニス・マツーエフ[ピアノ] ●曲目 プロコフィエフ:バレエ音楽『ロメオとジュリエット』op.64より、ピアノ協奏曲 第2番 ト短調 op.16、チャイコフスキー:交響曲 第6番 ロ短調 op.74「悲愴」
※詳細は後日HPにて


©Lois Lammerhuber　©Terry Linke

5/24(日) 一般発売

二分間の冒険

たった二分間で冒険!?
日本屈指のファンタジーの
名作を舞台化

DATA
●日程 7/25(土)13:00、26(日)13:00 ●会場 小劇場 ●原作 岡田淳(偕成社刊) ●上演台本・演出 山本卓卓(範宙遊泳) ●出演 百瀬朔、佐野瑞稀、青山勝ほか ●料金 おとな¥3500、子ども(4歳~高校生)¥1000、親子券あり ※出演者募集、終演後バックステージツアー実施

©田中亜紀

東アジア文化都市2020北九州 連携事業

4/23(木) 一般発売

響ホールフェスティヴァル2020

ご家族と♪友だちと♪
響ホールで
音楽と仲良くなろう

DATA
●日程 ①6/27(土)14:00、②6/28(日)14:00 ●会場 響ホール ●出演 響ホール室内合奏団ほか ●料金 各回おとな¥2000、こども(①3歳~中学生、②0歳~中学生)¥1000、親子ペア券(おとな1+こども1)¥2500

6/7(日) 一般発売

「cocoon」

2020年夏、
マームとジプシーが
新演出で上演

DATA
●日程 8/9(日)14:00 ●会場 中劇場 ●原作 今日マチ子「cocoon」(秋田書店) ●演出 藤田貴大(マームとジプシー) ●音楽 原田郁子 ●出演 青柳いづみ、菊池明明、小泉まき ほか ●料金 一般¥3500、ユース(24歳以下)¥2500

ONE COIN! 500 響ホールワンコインコンサート

平日お昼の45分間、ワンコイン500円でクラシック音楽をカジュアルに楽しもう♪

発売中	4/23(木) 一般発売
vol.21 酒井有彩(ピアノ)	vol.22 廣田美穂(ソプラノ)
●日程 5/14(木)11:45	●日程 8/5(水)11:45

●会場 響ホール ●料金 ¥500

※掲載情報は2/28(金)現在の情報です。※公演日程など変更になる場合があります。
※公演に関する詳細や各種チケットの購入条件などにつきましてはHPをご覧ください。

ふらここから

575で感じる季節のいろどり

俳句＝村田もも子　イラスト＝刈屋さちよ

たんぽぽの絮毛
吹いてる人が妻

子供のとき楽しかったこと。凧揚げ。貝殻拾い。ブランコ。たんぽぽの絮毛を飛ばすこと。大人になると興味が失せるのかと思っていたけど、全然そんなことなかったです。ちなみにコーナー名の「ふらここ」はブランコの雅語、春の季語です。空と地面とのあわいに立って世界を眺める。不安定さが楽しくもあり怖くもあり。そういう心持ちを大切に句作しています。

PROFILE

村田もも子／古本屋。檸檬句会運営。朝ドラ「おしん」「スカーレット」にハマり中。誰かと語り合いたくてうずうずしています。

刈屋さちよ／イラストレーター。2匹の黒猫とラジオを聴く日々。最近娘の描く絵がどんどん面白くなってきて楽しいです。

イロドリ＋プラス

今回のテーマ　北九州オリジナル

GENERAL STORE「kabui」

北九州市小倉北区大門2-1-9岩岡ビル1F
営業時間:12-19時 定休日:木　Instagram initialdeeee

劇場前の大通り沿いにある長いパーマ髭が個性的な通称ダボさんが営む「kabui」。小倉名物ぬか炊きデザインのキャップや、北九州の成人式写真のプリントTシャツなど、アーティスト×まち×ファッションのバランスが絶妙なコラボアイテムを自ら企画している。いまではここでしか出会えないモノ、コトの提案をするカルチャーの発信地として、「kabui」きっかけで北九州に興味を持つ若者も増えている。

INFORMATION 公演チケット取扱

❶オンラインチケット

2020年4月に
オンラインチケットの
システムリニューアル予定!
詳細は北九州芸術劇場・
響ホールHPにて

❷電話（主催事業のみ）

北九州芸術劇場
TEL 093-562-8435
（10:00～18:00／土日祝休）

響ホール音楽事業課
TEL 093-663-6661
（9:00～18:00／土日祝休）

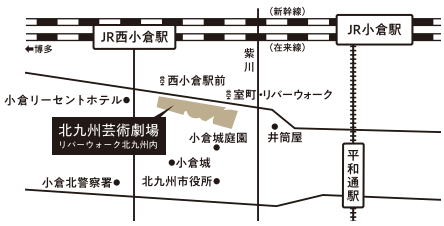
❸窓口

北九州芸術劇場プレイガイド
（リバーウォーク北九州5F Q-station内）
（平日 11:00～18:00、土日祝 10:00～18:00）

響ホール事務室
（9:00～18:00）

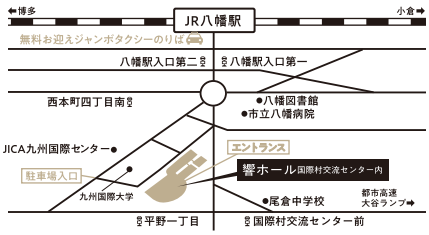
北九州芸術劇場
KITAKYUSHU PERFORMING ARTS CENTER

〒803-0812 北九州市小倉北区室町1丁目1-1-11
リバーウォーク北九州内
TEL 093-562-2655（10:00～18:00）



北九州市立 響ホール
HIBIKI HALL

〒805-0062 北九州市八幡東区平野1丁目1-1
国際村交流センター内
TEL 093-662-4010（9:00～18:00）



発行：（公財）北九州市芸術文化振興財団　編集：北九州芸術劇場、北九州市立響ホール　制作：（株）フリーランス　印刷：（株）ゼンリンプリンテックス　表紙・裏表紙撮影：田中紀彦（Studio Red Star）